

4 月以降のニカリウス地区における調査内容

- 科学委員会助言を踏まえ、以下の項目で調査を実施してきた。
- 調査実施前・実施中に、各項目の有識者にヒアリングした上で調査を実施。

調査項目	時期	回数	手法・内容等
①植生調査	5月、7月	2回（月1回）	5月、7月に対象事業実施予定区域、資材搬入区域及びその周辺を対象に植物相調査、現存植生図を作成した（ブラウン・ブランケ法）。
②オジロワシ調査	4月～8月	5回（月1回、3日間/月）	オジロワシの繁殖期の4～8月頃（各月1回）に対象事業予定区域及び区域の半径 2 kmを調査範囲とし、海上及び陸上から移動定点調査を実施した。
③その他の鳥類調査	4月～7月、9月、11月	6回（月1回、2日間/月）	4～7月、9月に対象事業予定区域及び区域の半径500mを調査範囲とし、ラインセンサスを実施した（陸上1ルート、海上1ルート）。 ※11月においても対象事業予定区域及び区域の半径500mを調査範囲としたラインセンサスを実施する計画としていた（海上ルートのみ） ※4～11月に対象事業予定区域周辺にICレコーダーを設置、夜行性鳥類の調査を実施。
④陸上動物調査	5月、7月	2回（月1回、2日間/月）	5月、7月に対象事業予定区域及び周辺を対象に哺乳類（フィールドサイン・トラップ・自動撮影カメラ）・昆虫類調査（見つけ採り・各種トラップ）を実施した。 ※重要種となる両生類も補足確認。
⑤景観調査	7月	1回	7月に対象事業予定区域及び主要な眺望点（海岸トレッキング利用ルート及び海上観光ルート）で写真を撮影し、フォトモンタージュを作成した。対象事業実施区域からの反射光の届く範囲をシミュレーションした。

4 月以降のニカリウス地区における調査結果概要

- 春～夏季調査は実施済み、夏季調査結果までを各有識者に報告済み

調査項目	概要
①植生調査	54科160種を確認。そのうち重要な種※は17科32種。外来種は9科17種。現存植生図は9区分に分類され、携帯電話基地局予定箇所の改変予定範囲は自然裸地、オオイタドリ群落等に位置。群落組成調査は13箇所を実施。
②オジロワシ調査	オジロワシ、オオワシ、ハイタカ、ハヤブサを確認。オジロワシは4～8月調査（累計16日間以上）で約120例確認。カブト岩付近で成鳥雌雄のとりを確認。今年生まれの幼鳥出現なし。
③その他の鳥類調査	23科43種を確認。そのうち重要な種は4科6種（シノリガモ、ヒメウ、ウミネコ、オオセグロカモメ、ケイマフリ、ウミスズメ）。
④陸上動物調査	哺乳類：7科11種、他バットディテクターにより少なくとも3種確認。 昆虫類：重要な種を3科3種（ゴマシジミ、ヒメギフチョウ、キバネクロバエ）確認（一部同定作業中。）。 両生類：重要な種を1科1種（エゾサンショウウオ）確認。
⑤景観調査	現地にて撮影した写真からフォトモンタージュを作成し、物理的指標から圧迫感や目立ち有無を整理。対象事業予定区域に近い陸上及び海上の一部地点から圧迫感があるもしくは目立つこととなる。また、反射光はシミュレーションを行った結果、1日のうち数時間程度は海岸トレッキングルートには届くものの、海上観光ルート（ヒグマウォッチングルート、陸地から約1.3km）には届かないと想定される。

※上記は8月調査結果までであり、結果は精査中のため変更可能性あり。

※各法令に基づく保護対象種や、環境省・北海道レッドリストの記載種を「重要な種」と記載。

※その他鳥類の秋以降の調査については、基地局整備計画のスケジュール等に変更が生じたことから実施を見合わせることにする。

作成したフォトモンタージュ

携帯基地局
建設予定地

※対象事業実施予定区域より約800m位置から撮影

携帯電話基地局予定箇所遠景

オジロワシ

植生調査風景

鳥類調査風景

ニホンジカ

ヒグマ

陸上動物調査風景

景観調査風景

凡例

- 鳥類調査範囲
- 植生調査範囲
- 陸上動物調査範囲
- 景観調査地点

- 海岸トレッキング利用ルート
- 海上観光ルート



調査位置図



0 500 1,000 m